

---

# 浪人の放埒

龍源寺直介

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

浪人の放埒

### 【Nコード】

N4334T

### 【作者名】

龍源寺直介

### 【あらすじ】

浪人の放埒についての小話

結局のところ仕官は叶わなかった

もう幾度目になるだろう

無頼の生涯も悪くはないと意気込んでいたが

もう托鉢僧にでも身を沈めるしかなさそうで

剣筋は悪くはなかった

切腹の儀礼も弁えていた

ただ滅私奉公だけではできなかった

忠義がなかったといってもよい

我慢さえすれば斬首にはならなかったのだろう

梅干や沢庵ばかりが供されて

豪農の長女であった妻をも困窮させている

侍の道はやはり侍が一番よく通じていた

しかし太刀はまだ売却しないでいる

まだ合戦の好機があると鑑みる

生首にするかされるか

その刃筋でしかと見届けるがよい

火縄銃に無鉄砲と卑称されようが着火しない

百姓は投石をしてくるだろう

地面の小石はそれだけで凶器だ

雑刀では文字通り太刀打ちできない

石礫に殺される

韜晦した剣客が地中に埋没する有様をみるがよい

歴戦の剣豪が陣中で壊滅する無様をみるがよい

合戦の狼煙が天空に立ち昇ったら

雌雄を決するまえに自害をする

妻の陰毛が魔除けならば

その魔性の蜘蛛の糸で結界を張ってくれ

いずれにしても一旦は幕を下げる

戦場で獅子奮迅していた壮年期

結局のところ盾を用いることはなかった

臓器ひとつを命に託し

そんな守衛は出来なかった

振戦が激烈なもので往生したもんだ

決して武者震いではなかった

ほんとうに膝が恐怖で笑っていたのさ

初陣なんてそんなもの

爺や連中が口を揃える

もう戦乱は終焉に向かうだろう

武士をやめて帰農するか

意気地を武士は立てねばならぬ

合戦で鉢合わせしたら大将も雑兵も

全員が死人だろう

そんな阿鼻叫喚ばかり見てきた

耐え難いそんな夜

寒村に残っていた小娘が後の妻だった

そこで草鞋を脱いで寄生した

良妻であったと思う

賢母になれたのだろう

火縄銃の火蓋を切れば

弓矢を使うという蛮行ができれば

刀を捨てて

いずれにせよ戦は続く

しばらく戦乱は収まりそうにない

そこで大小のみで生存を繋ぐとは

天晴な気概というほかあるまい

この濁世

救世主は自分自身の愛しかない

合戦なんてひとつの命懸けの祭りなんだろう

やっぱり自分の太刀は玉鋼ではなかった

腐敗する金属である鉛でできたものだった

脇差は間違いなく名刀だ

無銘だが禍々しいほどの光輝にあふれている

これならば我が鉄腸も両断できるはずだ

結局は最期は自害するしかなかった

もはや戦場は完全に離合集散している

どこからか勝鬨の氣勢があがっている

雌雄は決した

奮戦虚しく負け戦

生死はともに格好が悪い

しかし生死はともに滅ばない

それを信じるひとに限り

百姓の末っ子は侍の長男とは対決しない

それぞれに想う娘はいても

それが同じ娘だから

木刀と竹刀の立ち合いがはじまる

終わりはない

泥仕合だ

素っ頓狂この上ない

やがて彼らは真実に気づく

自分たちを掌理している不条理に

身体がしだいに熱を失ってきた

このまま白骨化していく

腐敗という過程を経て

その豊潤は熟成となり

円熟の極致に達する

浪人の放埒は続いていく

放浪癖が根なし草だと揶揄される

しかし太刀はない

信玄袋には僅かな金子のみ



路銀が尽き果てたらそこに根を張る

刻一刻と時が近づいてくる

旅立ちのそのときに

やはり妻だけは連れて行こう

苦勞ばかり掛けたので罪滅ぼしがしたい

彼女は村八分にされることだろう

それが生涯の伴侶というやつかもしれない

もういちど最後に抜刀する

狼の名残をその太刀風に託して

さらば我が心の桃源郷よ

いざゆかん地獄の如き曠野を

そして安らかな眠りを共に

死に等しい情眼を我に与えたまえ



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4334t/>

---

浪人の放埒

2011年10月8日16時55分発行